

道路環境、より安全に

豊里・下町跨線橋が開通



完成した跨線橋の開通を盛大に祝いました

本市津山町の国道45号と涌谷町の国道346号を結ぶ主要地方道・涌谷津山線で、豊里町のJR気仙沼線に架かる



住民らによる渡り初めも行われた開通式

「下町跨線橋」が完成。3月29日に現地で開通式が行われました。完成した跨線橋の長さは345メートル。県が平成14年度から整備し、総事業費は約23億円です。

開通式には三浦秀一副知事など県や国、市の関係者ら約40人が出席。テープカットや地域住民による渡り初めで開通を祝いました。布施孝尚市長は「跨線橋の完成で地域の安全性が格段に高まります。今回の整備で豊里地域がますます発展することを期待します」と祝辞を述べました。

農業分野で官学連携

東北大学大学院と協定締結

市と東北大学大学院農学研究科は3月25日、農業分野の人材育成などで相互に協力していくことを目的に、連携協定を締結しました。

仙台市青葉区にある東北大学大学院で行われた調印式では、布施孝尚市長と同大学院の駒井三千夫農学研究科長が協定書に署名。布施市長は「協

定の締結により、大学の知見を生かした農業分野の人材育成、6次産業化など1次産業を基軸とした新しいビジネス創出に取り組んでいきたい」と述べました。市では昨年、市内の農業経営者を育成する「登米アグリビジネス起業家育成塾」などで、同大学院から支援を受けています。



協定を締結した布施市長(右)と東北大学大学院の駒井科長



只野さん(左)らの指導で馬を使った田起こしをする上沼高の生徒たち

高校生が馬耕に挑戦

中田・只野さんが指導

中田町にある上沼高(齋藤隆校長の実習田で4月2日、農耕馬による田起こしが行われ、同校の生徒たちが昔の農法に挑戦しました。

田起こしを指導したのは、市内でただ1軒、農耕馬を飼育している只野仁夫さん(中田町蓬原)と、そのお隣の只野正明さん(同町上沼新田)。

この日は、農業技術科の生徒15人が、手綱を持って馬を引いたり、馬の後ろに付けた鋤を押ししたりして、田んぼを掘り起こしていきました。

今回の馬耕は、市内の隠れた伝統野菜や農法を発掘し継承する「市伝統野菜復活プロジェクト」の調査がきっかけで実現しました。

地域医療の最前線に

新・上沼診療所が開所

老朽化や狭あい化などに伴い、中田町上沼の弥勒寺中下地内から新寺山下地内に移転・新築を進めていた市立上沼診療所が完成。4月1日の診療開始を前に3月31日、開所式が行われました。

新しい診療所は、診療室を1室から2室に増設、検査機器なども充実させまし

た。延べ床面積は180平方メートル。国の地域医療再生事業補助金を活用し、総事業費は1億1070万円です。

開所式では布施孝尚市長が「地域医療の最前線として活躍願います」と述べ、同診療所の佐々木直英所長は「この診療所に魂を入れるのがわれわれの役目」と話しました。



開所式には関係者約40人が出席。新しい診療所の開所を祝いました

新・森公民館が開館

公民館全て指定管理に



旧・森小の校舎を改装して開館した新しい森公民館

東日本大震災で大きな被害を受け使用できなくなった追町森地区にある森公民館。平成25年4月に佐沼小と統合し

た旧森小学校の校舎を改修し、このほど新たな森公民館として開館しました。4月1日に新・森公民館で行われた開館式には、地域住民や市関係者など約20人が出席。地区コミュニティの新たな拠点の開館を祝いました。

公民館の開館と併せ、森公民館の管理は4月から指定管理者の森地区コミュニティ推進協議会(鈴木香会長)が行います。これにより、市内公民館(中田町はふれあいセンター)は全て指定管理となりました。

介護施設を避難所に

グループホームはさまと協定

追町北方地区の八の森部落会(遊佐啓一会長)と友愛自治会(飯坂幸喜会長)は、災害時の応援協定を地区内にある認知症高齢者対応型共同生活介護施設「グループホームはさま(及川君代施設長)」と結びました。

協定には、地震や風水害などの災害時にグループホーム

の施設を避難所として使用できるほか、施設と住民が毎年、合同で災害対応訓練を行うことなどが盛り込まれています。4月11日にグループホームはさまで開かれた調印式には、関係者9人が出席しました。市内で地区と介護施設が災害時応援協定を結んだのは5例目となります。



災害協定を締結した八の森部落会と友愛自治会。グループホームはさまの関係者ら



指定管理となる森公民館の館長としてあいさつする米倉紳児さん(右)。隣は事務員の鈴木明美さん(中央)と佐竹加代さん